

折れ戸①

商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり
- 有償部品

特注対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

■施工される方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意…取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険及び物の損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 吊車は本体に必ずねじ止めし、ガタツキがないように固定してください。本体が脱落するおそれがあります。
- 扉と枠の隙間や開閉時の扉と扉の隙間に手や指を入れると、はさまれてケガをするおそれがありますので、開閉時に隙間に手や指を入れないでください。
- 扉へのもたれ掛かりは扉がはずれ、転倒しけがの原因になりますので、もたれ掛からないようにしてください。
- 扉の把手に重量をかけると壊れたり、落下・転倒してけがをするおそれがありますので重量物をぶらさげたり、ぶらさがって遊ばないでください。

■施工上のお願い

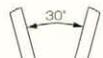
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみ等の原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます)
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振り等で水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時には必ず接着剤を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
- 本製品は上吊り方式のため、梁またはまくさで重量を受けますので、断面の梁またはまくさをご使用ください。
- 納品時に各部材・部品を核品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合合・キズ等による交換は出来ません。)
- 運搬・加工の際は、傷つけないように丁寧に取扱ってください。また水・直射日光の当たる場所に、開機状態で置かないでください。反り・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まくさとの間には必ず隙間をつくり、かい木を入れてください。かい木は合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。造作材・建具枠をコンクリート(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- ミラータイプの本体は、1つの枠の中に1枚のみとしてください。

■扉の開閉操作上のお願い

扉を開閉する際は、下記事項を守って操作してください。
●扉をフラットのまま移動させます。



●30°の角度で扉が一時固定するようになっていますので、この状態で移動させます。



※角度が30°未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。



■部品・部材の明細

■部材の明細

折れ戸本体	折れ戸用枠	折れ戸用下枠
<p>●クローゼット本体</p>	<p>●上枠</p> <p>●上レール</p> <p>●縦枠(2本)</p>	<p>●下レール</p> <p>●下枠</p> <p>または</p> <p>●埋込下枠</p> <p>ケーシングセット</p> <p>ケーシング材(上用)</p> <p>ケーシング材(縦用)</p>

■本体用部品

	吊車	皿タッピンねじ φ3.5×20 (吊車取付け用)	ガイド ローラー	把手セット (ねじ付)	調整スパナ	ピボット固定金具
W07-08	2	8	2	1	1	1
W12・13・16・18	4	16	4	2	2	2
W24・26・27	6	24	6	3	3	3
W33・34・36	8	32	8	4	4	4

■枠用部品

	DNビス (皿木ねじ) φ3.8×65 (上枠・縦枠組立て用)	トラスタッピンねじ φ4×55 (上枠縦枠取付け用)	皿タッピンねじ (頭部シート色塗装) φ4×50 (縦枠縦枠取付け用)
W07-08	4	4	12
W12-13	4	5	12
W16-18	4	6	12
W24	4	8	12
W26-27	4	9	12
W33	4	10	12
W34-36	4	11	12

■下枠用部品

	DNビス(皿木ねじ)φ3.8×65 (下枠組立て用)	皿タッピンねじφ3.5×20 (枠取付け用)
薄下枠W07-W08	4	2
薄下枠W12-W18	4	3
薄下枠W24-W36	4	5
埋込下枠W07-W18	-	3
埋込下枠W24-W36	-	5
	縦枠下部ピース	縦枠下部ピース取付けねじ (皿タッピンねじ) 1種φ4×20
埋込下枠W07-W18	2	2
埋込下枠W24-W36	2	2

室内ドア

室内引戸

可動
間仕切り

クローゼット
ドア

玄関収納

造作材
(DS窓枠)

造作材
(定尺材)

腰壁

収納

手すり

規格表

室内ドア

室内引戸

可動
間仕切り

クローゼット
ドア

玄関収納

造作材
(DS窓枠)

造作材
(定尺材)

腰壁

収納

手すり

有償部品

特注対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

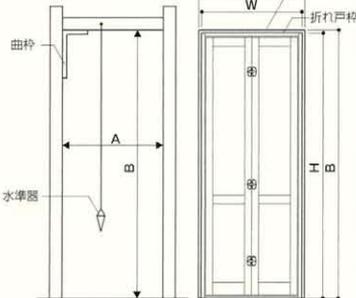
用語解説
索引

■開口部の作り方

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

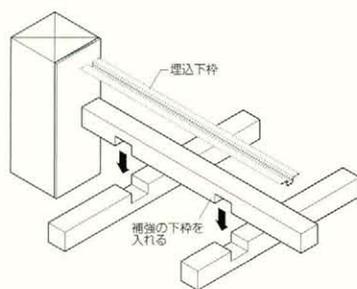
開口寸法A	製品寸法W+10mm
開口寸法B	製品寸法H+5mm

●開口寸法



■下枠下地の確認

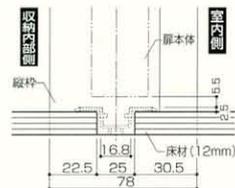
●枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根本張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や扉開閉不具合の原因となります。



【埋込下枠を使用(枠後付け)する場合】

■床張り位置(床の張込み)

●下図の位置に25mm(最小開口20mm)あけて床材を張ってください。

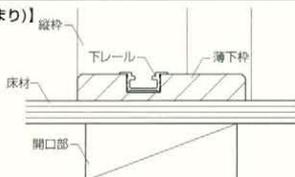


【お願い】

●床材は必ず上図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床の隙間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

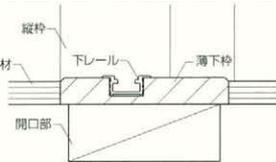
【薄下枠を使用する場合(床載せ納まり)】

●床材を張ってから枠を取付けてください。



【床後張り(枠先付け)の場合】

●枠取付け後、縦枠・薄下枠にそって床材を張ってください。



■取付け順序

1 枠の組立て

【埋込下枠を使用する場合】

●縦枠下部(A部詳細図中斜線部)を切断してください。

●縦枠に縦枠下部ピースをねじ(皿タッピンねじφ4×20)で固定します。縦枠に下穴を開ける時は、この取付説明書に載せてある型紙を使用して位置出しをしますと、簡単に開けることができます。

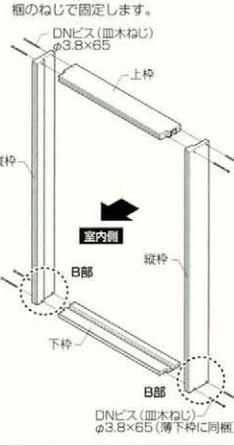
●下図のように各部材を組み合わせ、同梱のねじで固定します。



【薄下枠を使用する場合】

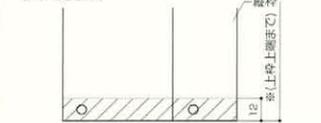
※縦枠下部(B部)は切断せずに使用してください。

●下図のように各部材を組み合わせ、同梱のねじで固定します。



■A部詳細図

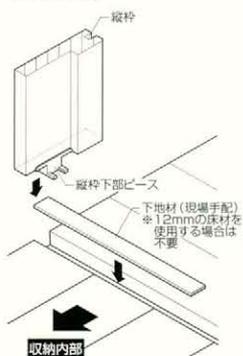
※この寸法は床上面(F.L.)から上枠上端までの寸法を、H18=1823 H23=2306 H20=2023にする時の寸法値です。現場の納まりにより変更してください。



枠の組立ての詳細に関しては、取付説明書を参照してください。

■埋込下枠の取付け

①(15mmの床材を使用する場合) 下地調整材を床の開口部に取付けてください。

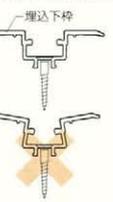


②埋込下枠をねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。この時、埋込下枠と縦枠下部ピースをしっかりとめ込んでからねじ止めしてください。埋込下枠の浮き上がりや扉開閉不具合の原因となります。



【お願い】

●埋込下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。埋込下枠が変形し、扉開閉不具合の原因となります。



※埋込下枠の足(斜線部)が縦枠下部ピースの足(斜線部)の間にはっきりと入るように取付けてください。

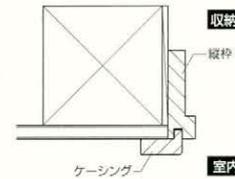


2 枠の取付け

●組立てた枠を開口部に入れます。縦枠にケーシングを差込みます。枠の固定位置を確認します。

※ケーシングの足が短いため、後で調整することができません。このため、位置出しは確実に行ってください。

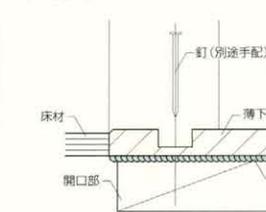
※ケーシングは、位置出しのためですから、固定はしないでください。



●上枠・下枠・縦枠を躯体開口部に固定します。

【床材厚さ12mm】

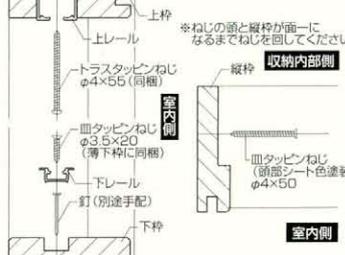
※必ず薄下枠に接着剤を付け、躯体に固定してください。



▲注意

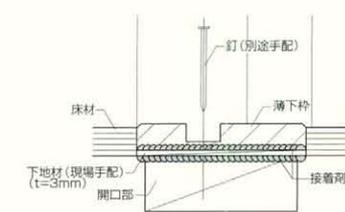
■薄下枠を使用する場合

※ねじの頭と縦枠が面一になるまでねじを回してください。



【床材厚さ15mm】

※必ず薄下枠と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



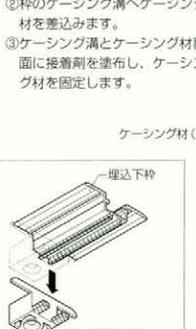
■ケーシング材の取付け

※壁材・床材を仕上げてからケーシング材を取付けてください。

①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。

②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。

③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤を塗布し、ケーシング材を固定します。



折れ戸②

商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり
- 有償部品

特注対応品

- ガラス寸法
- 基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

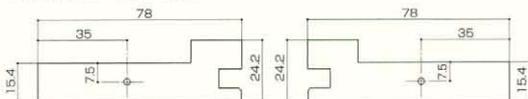
発注書

用語解説
索引

■縦枠下部ピース取付け穴加工位置

【ケーシング付縦枠】

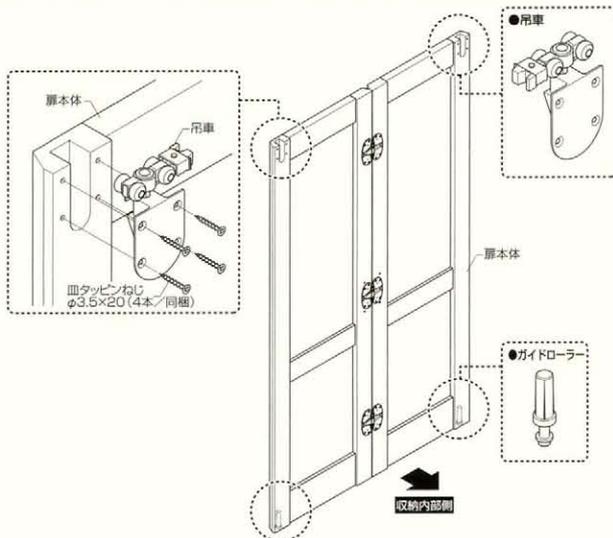
※下穴の大きさ：φ2.5 深さ5mm



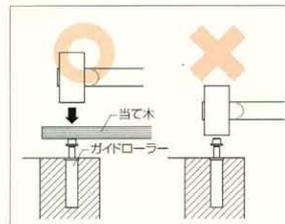
■本体の吊込み

①扉上部の切欠き部に、吊車を差込み、皿タッピンねじで固定します。ガイドローラーを扉の加工穴に圧入します。

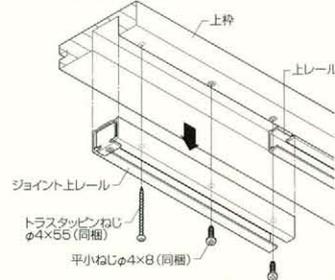
※ミラータイプの本体は、1つの枠の中に、1枚のみとしてください。



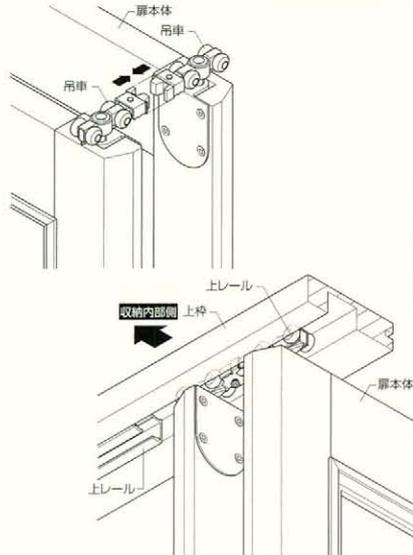
※ガイドローラーを圧入する際、樹脂部に当て木を使用してください。



②扉を吊込む前にジョイント上レールを取り付けます。



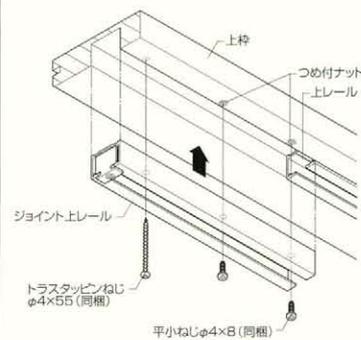
③扉を折りたたんで扉上部の左右の吊車をかみ合わせます。次に上枠のレール端から、吊車を差込みます。



④ガイドローラー先端を指で押さえ、下部レールへ差込みます。



⑤扉を吊込んだ後、ジョイント上レールを取付けます。
※ジョイント部に段差が出ないようにつめ付けナットにしっかりとめてください。

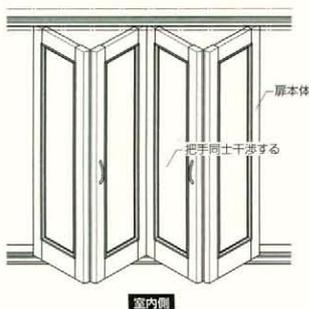


⑥把手を取付けます。
2枚の扉の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。把手を取付ける側の扉の下穴を貫通(φ4.5)してください。下穴をあける際には、本体裏側にあて木をし、バリが出ないようにしてください。

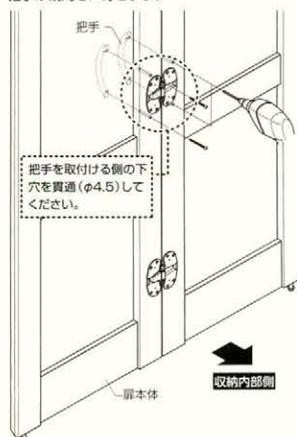
【お願い】 ●あて木をしないで下穴を開けるとシートがめくれる原因となります。

【把手の位置について】

- 1) ミラー付扉の場合、ミラー側の扉には把手が付きません。
- 2) 扉を複数枚吊込んだ場合、扉を折った状態で向かい合わせになる扉それぞれに把手を取付けると、開閉した時に把手同士が干渉します。製品にキズがつかますのでできるだけ向かい合わせにならないように取付けてください。



把手は縦向きに付きます。

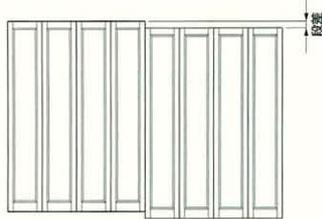


調整

※本体の段違い(上・下)を調整します。

【段違い(上・下)の調整】

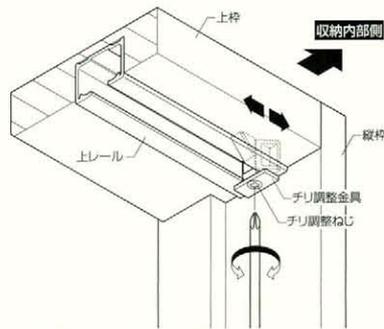
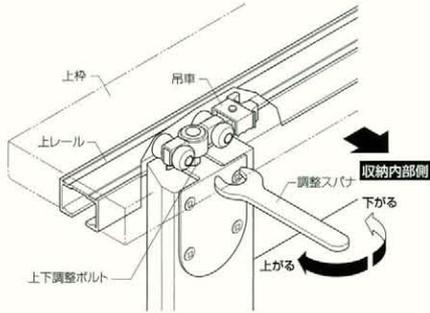
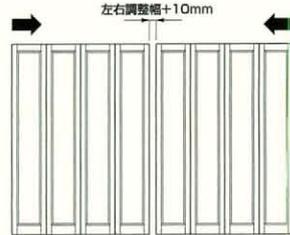
- 扉の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ボルトを付属のスパナで回し調整してください。(上下調整量±3mm)



【チリ(左・右)の調整】

- 扉間のチリが大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているチリ調整金具で調整できます。チリ調整ねじをドライバーで回し、調整してください。チリ調整ねじを右に回すと、チリが小さくなります。

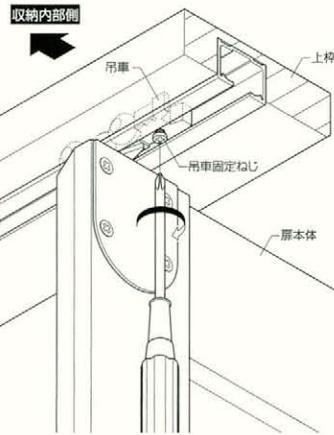
注)チリ調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。



【フリーピボットの変更】

●扉上部の固定

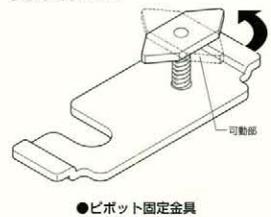
- ①扉本体をピボットにしたい位置まで移動させます。
- ②固定したい扉側の上部吊車に付いている“吊車固定ねじ”を回し、しっかり吊車が固定されるまでねじを回します。
- ③扉を左右にゆすって扉が固定されたかどうかを確認します。



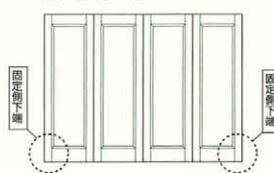
●扉下部の固定

- ※ピボットタイプとして本体を使用する場合は、本体用部品セットに同梱のピボット固定金具を用いて本体固定側の下端を固定してください。

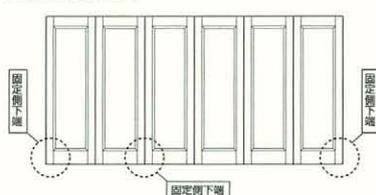
- ①本体を正しい位置に移動させて、本体の垂直がでているか確認します。
- ②ピボット固定金具可動部を下図のように長手方向に向けます。



●本体2体固定の場合



●本体3体固定の場合

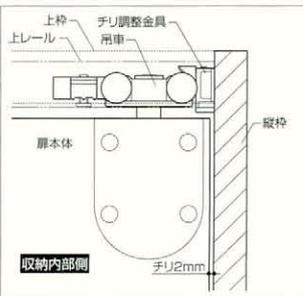


●ピボット固定金具使用数量

本体	数量
本体1体固定の場合	1個
本体2体固定の場合	2個
本体3体固定の場合	3個
本体4体固定の場合	4個

【ピボットフリーの変更】

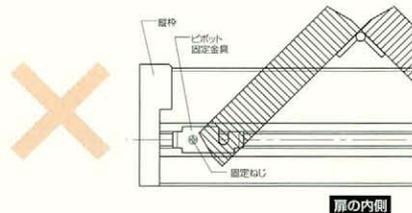
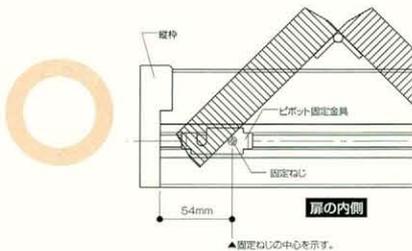
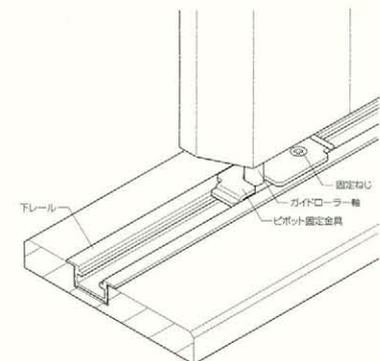
※吊車の吊車固定ねじを、ねじの回転が重くなるまでゆるめてください。開閉不具合の原因となります。



- ③ピボット固定金具可動部を長手方向に保ったまま、ピボット固定金具を下図のように向け、U字型の切欠き部分をガイドローラーに合わせ、下レールにのせます。

- ④ピボット固定金具の取付け向きは、下図のように固定ねじが扉の内側になるよう、取付けてください。
- ⑤ピボット固定金具の固定位置は、下図を参照してください。

- ⑥固定ねじをプラスドライバーで右に回します。ピボット固定金具が動かないよう固定されたかどうか、確認してください。
※尚、再びピボットからフリーにするときは、固定ねじを左に回しねじをゆるめてピボット固定金具を回転させながら外してください。



**商品特長
商品一覧**

室内ドア
室内引戸
可動 間仕切り
クローゼット ドア
玄関収納
造作材 (DS窓枠)
造作材 (定尺材)
腰壁
収納
手すり

規格表

室内ドア
室内引戸
可動 間仕切り
クローゼット ドア
玄関収納
造作材 (DS窓枠)
造作材 (定尺材)
腰壁
収納
手すり
有償部品

特注対応品

ガラス寸法

**基本寸法
納まり図**

**組立施工説明
お手入れ方法**

発注書

**用語解説
索引**